

「マスクをしない日がなくなった」、「電車に乗らなくなった」、「ウーバー代がかさむようになった」…コロナ禍の前と後では、私たちの生活や意識は一変しました。11月14日に開催された「げんせつ」通信員総会では、参加した通信員の皆さんに「自分の仕事やくらしで「コロナ前と今とで変わったこと」をテーマに記事を書いていただきました。

対人関係の難しさ学んだ 忍耐を重ねた2年間



高嶺さん

【多摩稲城・電気・高嶺俊一通信員】新型コロナウイルスが発生してから約2年が過ぎ、以前の日常生活が一変したことが多数見受けられる日々が、今日も続いています。まずはマスク着用の一般化。歩行中・電車の中、デパートの中、今どこを見回してもマスク着用は常識化しているようです。組合員にとってこの2年間はいろいろな忍耐に忍耐を重ねた期間でした。世間一般では、リモートワークの推進が大声で発せられて

私の場合、マンション、住宅の電気設備の改修、修理が主な仕事のため、訪問先でのコロナ対策には特別注意を払いながらの作業が続きまして。お客様のの中には全然無関係の人、人一倍神経質な人など、正に十人十色で、仕事より対人関係の難しさを学んだ2年間だったと感じています。

仕事途切れた2年目 組合があって良かったなあ



吉田さん

【江東・軽天・吉田美穂子通信員】2年に及ぶコロナ禍で1年目は持続化給付金のおかげで、生活を切りつめて過す事ができました。が、2021年はひどかったです。1月、2月は今年までの年より少し悪いくらいでしたので、はっきり言ってこの時までは、他人事のように考

えていました。しかし3月過ぎてからは、バタッと任事がなくなり元々、この仕事を始めたのは夫の父が年をとり、一緒に手伝ってほしいと言われ始めたので、1社のおかえ職人的な感じでした。なので、この会社からの電話がくるのを毎日待っている生活でした。3月以降は月に10日もあれば良い方で、毎日顔を合わせていても、仕事関係の話は、暗黙の了解となり、どこかきこえない毎日になりました。そんななかで私は、拡大行動、分会会議、支部役員会議、



前原さん

コロナ禍でなければ 亡き義母の百寿祝えたのに

【町田・総合看板・前原勝美通信員】2年前から世界中で、新型コロナウイルス感染症拡大のニュースが連日流れ始めた。外出や旅行など自粛宣言が何度も発令されたことは、地球規模で世界経済に多大な悪影響を及ぼした。国内でも芸能人がコロナで突然亡くなったと報道された時は、他人事ではなかった。志村けんさんは私と同じ年齢

だったので、今回ほと組合活動があった良かったなあと思えたことはありませんでした。私自身の仕事への影響は、コロナ陽性者数がふえ続けたことで、2020年4月から8月の仕事はかなり減少し、経費や税金の支払いなどが遅れて苦労した。家庭生活では、妻の母が同年11月に満100歳を迎えたので、老人ホームに行ってお祝いの言葉と写真

を撮ろうと頼んだが、コロナ禍で会えず、介護施設の人にデジタルカメラを渡して写真を数枚撮ってもらった。その義母が2021年7月に亡くなった。葬儀は近親者だけでとり行なったが、「コロナ禍でなければ大勢に知らせて最後のお別れができたのに」と残念だった。2022年はコロナも収束して、明るい年になるように願っている。

仕事やくらしで「コロナ前と今とで変わったこと」

外出減って寂しい 好きな温泉にも行けず



小田井さん

【調布・ハウスクリーニング・小田井文栄通信員】新型コロナウイルス、とても怖く思っています。まず外出しなくなりました。生活するなかで、毎日のように行っていたスーパーでの買い物も混雑する時間を避けて、1週間に1、2回程度にすませて、買物物はメキして短時間で帰る

ようにしていました。年配者にとって、外に出る機会が少なくなってきたので、足腰が弱くなってきました。子どもには今までしたことのない散歩をしたほうがいいといわれました。そしてなによりも温泉好きなので、旅行には、年に2、3回は行っていました。年配者にとっても、外に出る機会が少なくなってきたので、足腰が弱くなってきました。子どもには今までしたことのない散歩をしたほうがいいといわれました。そしてなによりも温泉好きなので、旅行には、年に2、3回は行っていました。

耳痛いマスクはイヤ 品不足で残念な状況続く



周佐さん

【中野・給排水設備・周佐博通通信員】コロナ禍の現場状況は、日本の生産部品をつくる工場がベトナムにあり、ベトナムの工場は今ロックスダウンしている状態。半導体の関係もあって、便器ウオシュレットなどが品不足となっていて、給湯器もない状況です。車もそうです。現場の引き渡しができない。とあり、入らざるに取替えるといった状況。いまだ納入の日時も決まりません。緊急事態宣言が9月いっぱいまでと解除されましたが、第6波がいつ来るか心配です。便器・ウオシュレットがないと引き渡しできないので、とても残念です。一日も早く、マスクを着けない生活に戻りたいものです。耳が痛いです。お客様の家に打ち合わせで行くときも、必ずマスクを着用するの

難聴者にはつらい 3密避けての距離確保



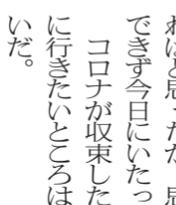
富彌さん

【品川・内装・富彌良則通信員】コロナ禍で変わったことはマスク着用と3密・ソーシャルディスタンスだ。マスク着用は前からだったので苦しいとは思いませんが、困った

のはソーシャルディスタンス。加齢性難聴で補聴器をつけているが、会議などでもマスク着用で一定離れると声が聞こえず、何を言っているかわからないことが多い。一対一では話ができるので、なかなか回りの人に難聴を分かかってもらえない。仕事先ではマスクが苦手な人がいるが、着けていないと

収束したら一番行きたい所 苦勞させた兄の見舞い

【渋谷・看板・加藤行夫通信員】「手洗った？」「部屋の奥から娘の大きな声が響く。外から帰ったら必ず手を洗うように何度も注意されるが、つい忘れてしまう時がある。コロナに感染したら自分だけの問題ではなく、家族や接触した人全員に迷惑をかけることになる、と説教される。2020年の春に、実兄が脳梗塞で倒れ入院したと実家の地元にいる姪っ子から連絡が。すぐ見舞いに行こうと思ったが、コロナで県外移動は自粛で行けず、メールで見舞いのメッセージを送った。



加藤さん

86歳になる実兄は、12歳の時父を亡くし、母が5人の子どもを育てるために必死に働いている姿を間近で目にしていたので、中学を卒業してすぐ農家の手伝いに。年に米4斗、現金3万円が働きに出て4人の兄弟の面倒を見る母を助けていた。その兄が倒れたと聞いては一刻も早く見舞いに行かなくてはと思ったが、思いは実現できず今日にいたっている。コロナが収束したら、一番に行きたいところは兄の見舞いだ。

家族との会話ふえ 比例して体重まで増加



田嶋さん

【江川川・設備・田嶋隆人通信員】コロナ前と変わったのは、家族のコミュニケーションが増えたことです。コロナ前は、家族各々が仕事や学校やプライベートをして組合活動と日々時間に追われ、家の中では何かがなければ会話らしい会話がほとんど

なかったのですが、コロナ禍で家にいる時間が多くなり、必然的に会話が増加。一緒に食卓を囲むこともふえました。みんなで食卓を囲むと自然と食が進み、家族のコミュニケーションはふえました。最近ではコロナの感染者数も減ってきて、また以前のような家族がバラバラの生活に戻りつつありますが、コロナ禍の生活を教訓に、週に1回は家族で食卓を囲むようにしようと思います。